

チェルノブイリ30周年バルト諸国訪問へ田上長崎市長のロシア

国会議長へのメッセージを携えて 被爆者 田中重光さん出発



CITY OF NAGASAKI

リトアニア国会議長

ロレタ・グラウジニエネ 様

謹啓 貴台におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

1945年8月9日午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により、街中が炎に包まれ、黒焦げの死体が散乱する中、多くの市民が逃げまどいました。凄まじい熱線と爆風と放射線は、7万4千人もの尊い命を奪い、7万5千人の負傷者を出し、かろうじて生き残った人々の心と体に、今も癒えることのない深い傷を刻みこみました。

核兵器の非人道性を身をもって知る被爆者は、二度と核兵器が使われないことがないよう、被爆の実相を世界に伝え、核兵器廃絶を訴え続けています。しかしながら、世界には今なお1万6千発近くの核兵器が存在し、核兵器の恐怖は、決して過去のものではありません。核兵器のもたらす危険性は、世界が抱える過去から続く今と未来の問題なのです。

「核兵器のない世界」を実現するためには、国境や世代を超え、多くの方々と連携して核兵器廃絶を訴えていくことが必要です。

今回の原水爆禁止日本協議会からの代表者の訪問を機に、一人でも多くの方が、戦争の愚かさや核兵器の非人道性に理解を深め、長崎市民の平和への思いを共有し、核兵器廃絶の声を大きく広げていただくことを期待しております。

最後に、貴台のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

謹白

平成27年4月28日

5月2日午後、田上長崎市長表敬訪問

原水協や新婦人の役員と田中重光さん、6名で訪問しました。田中さんはリトアニア国会議長への市長メッセージを受けとり、訪問団参加の抱負を述べ、懇談しました。

チェルノブイリ事故で汚染除去に動員され被爆した方へ贈られる新婦人作成の被爆地長崎の思いがこめられたタペストリー前で田上市長と記念撮影。



チェルノブイリ事故30年
リトアニア議長に親書
田上市長 訪問の田中さんに託す

長崎
チェルノブイリ原発事故から30年の式典などに出席するため、事故被害に遭ったリトアニア、ラトビアを訪問する長崎原爆被災者協

議会議長の田中重光さん(75)が2日、出発前に長崎市役所を訪問。田中重光市長は国境や世代を超え、多くの方々と連携して核兵器廃絶を訴えていくことが必要など、記したリトア

海外渡航の前に市役所を訪問した田中重光さん(右)ら

二ア国会議長宛ての親書を田中さんに託した。リトアニア、ラトビアでは日米連携、原発事故の事後処理の作業に若者が動員され被災した。田中さんは被害者救済に取り組み、リトアニアの医療基金などの協会の代表団の一員として訪問する。

親書は6日リトアニア国会副議長と面会して渡す予定。その後ラトビアで被災者への治療に当たっている大学病院を訪ねる。田中さんは長崎での原爆の被害を伝え、放射能と人間は一緒に壊れやまないという話を聞いたと話した。(佐藤麻佳)

代表団派遣募金 ご協力下さい

被爆者とともに核兵器廃絶へ 2016/5/6 GensuikyōNEWS

原水爆禁止長崎県協議会
〒850-0035 長崎市元船町5-11-402
TEL 095-895-9106
FAX 095-895-9102

講演会のご案内

「核兵器の非人道性の告発から禁止条約へ」

「被爆者が訴える国際署名」を国民運動へ発展させよう

講師 安井 正和 日本原水協事務局長

講演会後県原水協2016年定期総会(15時～16時)を開催します。

平均年齢80歳を超えた被爆者が渾身の思いを託す「国際署名」、後世の人々が生き地獄を体験しないように、「核兵器を禁止し、廃絶する条約」締結を求める署名への賛同をよびかけています。核兵器のない世界へ、被爆者の思いを学べる講演会です。 お出かけください。 参加費 無料、どなたでも参加できます

☆とき 5月14日(土曜日) 14時～15時
☆ところ 長崎市立図書館新興善メモリアルホール